

海を歩く

—クルーズの新しい試み—

フンク・カロリン*

1. 「せとうちおさんぽクルーズ」計画 と調査目的

「せとうちおさんぽクルーズ」は全日空スカイホリデーの主催で、2002年9月20日から11月23日までの金・土曜日に合計20日間行われた。14の市町村と数多くの観光施設、地元交通関係事業者、旅行会社、運行会社が事業主体になった「島めぐり航路実行委員会」を構成した。宮島・広島市・呉市(西ルート)と三原市・尾道市・鞆ノ浦(福山市)・因島市(東ルート)の発着地から朝出発し、周遊地の7つの島を周り、夕方に発着地に戻るクルーズで、5000円のパスポートで2日間自由に乗り降りができる設定であった。周遊地の各島には、一日に4回(生口島、下蒲刈島)または6回(大久野島、大三島、大崎上島、大崎下島、上蒲刈島)、船が立ち寄っていたので、島での滞在時間を柔軟に調整できる仕組みであった。この計画の手本は、広島県備北・芸北地域で2年連続行われた「やまなみルートバス」であった。広島県が事業を仕掛け、目的地の市町村、観光施設、交通関係事業者が協力し、事業委員会を立ち上げる仕組みには、共通点がみられるが、バスと船は借りる代金が異なるなど、事業実施には相違点も多い。

「島めぐり航路実行委員会」の事業実績によると、パスポートの販売枚数は2744冊で、目標であった2400冊を上回ったが、旅行者による募集団体客はその半分以上を占めていた。発着地からの乗客数は2944人で、一日当たり147人であった。団体客が多い関係もあり、曜日別の偏りがみられない。また、期間中、周遊地7島への下船者数は6783人で、1日当たり339人であった。そのなかで特に大崎上島(下船者数の35.9%)、大崎下島

(28.6%)への集中が目立つ。また、東ルートからの乗客数は発着地合計乗客数の20.3%にとどまり、西ルートに比べ、発着地周辺の人口規模が小さいことが反映されている。

主催者側は、パスポートに簡単な調査表を含め、乗客から合計1495通の回答を得たが、その結果の一部、以下の報告に参考のため含めている。その調査とは別に、著者はクルーズの最終日にアンケート調査を行った。その調査は、クルーズに参加した客の行動を把握し、訪れた島と瀬戸内海についての印象を調べることを目的とした。調査は調査員6人がクルーズに参加し、乗客とともに各島において、そこでクルーズ参加者の行動や、受け入れ側の体制を観察する部分と、夕方に周遊地から発着地に戻る船でクルーズ客にアンケート調査を行った部分からなっていたが、この報告の内容は後者に限る。

2. 日本におけるクルーズと船旅の現状

海上交通は単なる交通手段でありながら、舟上からの移り変わる風景が観光対象になり、また舟上で様々なサービスを受けながら時間を過ごす、いわゆる本格的なクルーズも歴史の長い旅行形態である。飛行機の普及までは、クルーズが船旅の高級な形態として限られた社会階級に利用された。国際旅行は飛行機で行うようになり、クルーズが移動手段ではなく、船旅を楽しむための性格が強まった。1980年代には、アメリカを中心に、クルーズ日程の短期化、クルーズと飛行機の組み合わせ、クルーズ船の大規模化、テレビにおけるクルーズを舞台にした映画やドラマの増加などにより、中級階級を対象にクルーズが流行になり、

*広島大学・総合科学部広域文化研究講座

その後、国際観光産業の1つの成長市場になってきた。最も人気の高い目的地であるカリブ海では、年間77船がそれぞれ1000人以上の乗客を運んでいる。アメリカ合衆国の市場だけでも、1994年まで毎年4%前後の成長率が見られた(Orams 1999: 24, 40)。

日本では内航海運の観光化が1960年代に始まるといわれるが、その時阪神と別府を結ぶ内海ルートが開設され、温泉ブームも手伝い、大都市住民に好評であった(足羽, 1994)。一方、国内旅客船路事業者は経営規模が小さく、安全性の問題も指摘され、港施設の老化が目立ち、楽しむための船旅よりも、運送手段としての性格が強い。また、航空路線の充実と架橋増加で、船舶乗客が全面的に減少し、全国港湾における1年間の乗込人員数が1980年の9500万人から20年間でその3分の2の6358万人(2001年)に減った。そこで1996年から始まった港湾整備七箇年計画に基づき、旅客ターミナルの整備が推進され、港の魅力化が図れている(総理府編, 1999)。広島・別府間の高速艇船路など、旅行形態の多様化により、観光を目的とした新船路の開設もみられ、舟は観光の手段として見直されている動きも伺える。

日本の本格的なクルーズ市場は規模が20万人前後にとどまり、日本船社が運営しているクルーズ船も乗客数1000人以下で、国際的に活躍する船社に比べて小さい。経済不況の影響を受け、外航・内航クルーズを合わせて、1990年代に乗客数が停滞、または減少する状況が続いていたが、2000年にマレーシア船社が日本着発の短期クルーズの運行を開始し、その影響で外航クルーズ乗客数が増加に転じた。内航クルーズの乗客数は相変わらず減少傾向が続いているが、1997年以降のデータには国内フェリーによる内航クルーズも含められ、その人数が伸びはじめている。(国道交通省, 1999)。

国内フェリーが定期船をクルーズ船感覚で改造し、または団体用・イベント用のクルーズ船を運営する傾向が瀬戸内海でもみられ、「せとうちおさんぽクルーズ」を実際に運営していた瀬戸内海汽船はホテル経営、レストラン経営も行っており、

運送業を観光業に拡大する事例だといえよう。このような運送会社の新しい展開も、「せとうちおさんぽクルーズ」開催実態も、1960年代に続き、二度目の内航海運の観光化につながると思われる。

3. アンケートの概要

2002年11月23日(土)夕方に島から広島方面(2艇)、三原方面(1艇)に帰る船のなかで、アンケート用紙を配付し、その場で回収した。広島行き便81名、広島行き団体旅行専用の便67名、三原行き26名、合計174人から回答を得た。

回答結果を回答者の年齢層、性別、居住地、または団体客・個人客別に分析し、統計的に有意な差が認められた場合、以下の解釈に加えた。

4. 回答者の特徴

回答者の年齢層と性別をみると、最も多かった年齢層は50代で29.9%、続いて60代19.0%、70代13.2%であった。逆に20代未満は8.6%にとどまる。そこで、分析のために、年齢層を40代まで(29.9%)、50代(29.9%)、60代以上(36.2%)と、3つのグループにまとめた。60代以上の割合が高いことから、退職後の参加者が多いことがうかがえる。

女性が63.8%と、男性(31.0%)に比べて多かった。この割合は主催者側のアンケート結果とほぼ同じであり、平日に設定されたことが影響してい

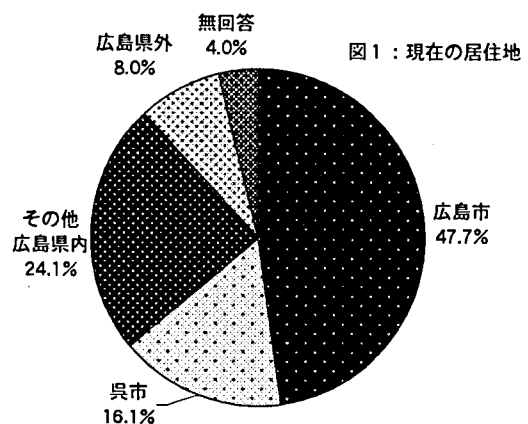


図1：現在の居住地

と思われる。

回答者の居住地は広島市が最も多く(47.7%)、その他広島県内、呉市と続き、県外から参加した人は少なかった(図1)。年齢別に見ると、60代以上の参加者は呉市(20.6%)が多く、50代は広島市と呉市以外からの参加者(32.7%)、40代以下では広島市(57.7%)の回答者が多かった。

なお、分析のとき、県外からの回答者を無回答者と合わせて、「その他」のグループにまとめた。

普段の生活における船の利用を尋ねたところ、日常生活で船に接することがあまりない人が最も多かった(44.3%)。しかし、海に面した広島市、呉市に住んでいる回答者が多いためか、帰省や日帰り旅行で回答者の33.9%が船を利用することがある。クルーズやつりで船を利用する人がそれぞれ8.6%にとどまり、おさんぽクルーズへの参加は非日常的な体験だといえよう。

5. 旅行形態

クルーズへの参加は、近接地からの参加者が多いことから、日帰りが多い(73.0%)が(図2)、一方、県外客の約半数(52.4%)は宿泊している。主な宿泊地として大久野島(19人)、大崎下島(7)があげられた。

せとうちおさんぽクルーズのことを友人、知人から知った人が最も多く(35.1%)、その他の情報源は旅行会社(27.6%)と広告パンフレット(26.4%)

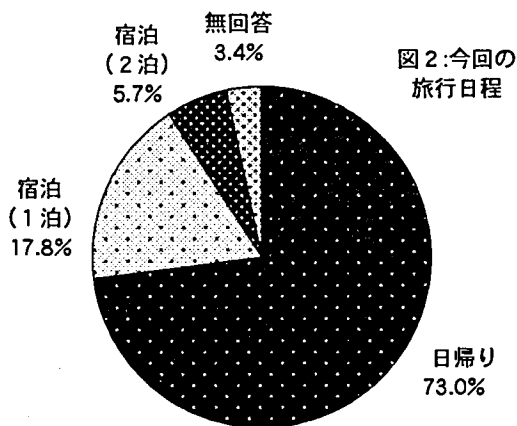


図2: 今回の旅行日程

が主である。せとうちおさんぽクルーズは新しい試みとして話題性が高く、新聞だけでも20回ほど取り上げられたが、新聞(6.9%)やテレビ、ラジオ(4.6%)から情報を得た参加者は少なかった。

この旅行では、新聞社や旅行会社の募集团体に参加している回答者が42.5%、参加していない割合が53.4%と、ほぼ半々に分かれた。年齢が上がるにつれ、団体客の割合が高く、また、女性の方が、団体客の割合が高い(47.8%)。

旅行の同行者は図3で表したが、家族で参加した人が最も多く、特に男性は、家族と同行している割合が高い(64.9%)。また、広島市から参加した人も、家族で参加した人が多い(56.5%)。

クルーズのパスと宿泊費を除いて、島で買い物や食事などに、平均4477円の金額を使った(無回答者14人を除く)。但し、回答者のなかで、1万円以上の出費を記入した人が18名含まれている。そのうち10人が宿泊をしたことから、その出費は宿泊費を含む可能性があると考えられ、その10人を平均計算から除くと、平均出費は3813円になる。

団体客のほうが、3536円で平均使用金額が低い。

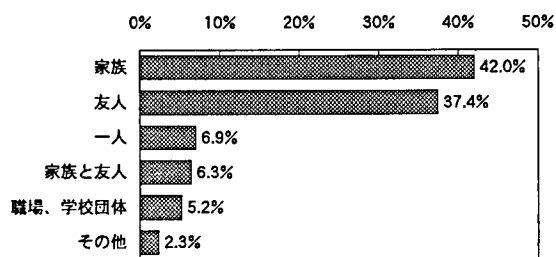


図3: 旅行の同行者

6. 島の評価と島での行動

立ち寄った島についての評価と、特によかったこと、よくなかったこと、また各島で行った行動と、島に立ち寄った順番について、3つの問に分けて尋ねた。

まず、各島について、全然よくなかった(1)、あまりよくなかった(2)、普通(3)、まあよかった(4)、大変よかった(5)という、5段階で評価を記入させ、それをもとに各島についての各評価段階の割合(図4)と平均点数(図5)を計算した。

全体的に、「まあよかった」と、「大変よかった」という評価が大部分を占めている。「全然よくなかった」、「あまりよくなかった」、「普通」という3つの項目を合わせても、その割合が最も高い大久野島でさえ、23.1%にとどまっており、「よかった」という評価は、すべての島で4分の3を上回っている。

7つの島に対する評価を平均点数で見ると、上蒲刈島の評価が最も高かったが、訪れた人数が最も少なく、その中で「大変よかった」と評価した人が多かったため、点数が高くなった。全体的に、評価は4.05点から4.31点までの間に収まり、大き

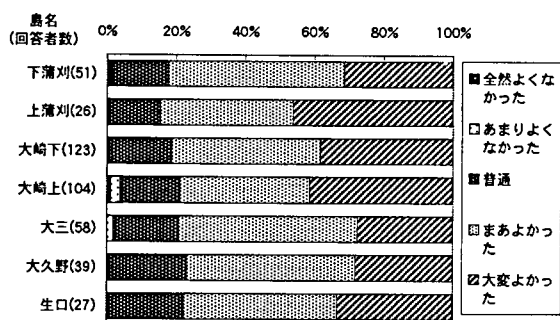


図4：各島に対する評価

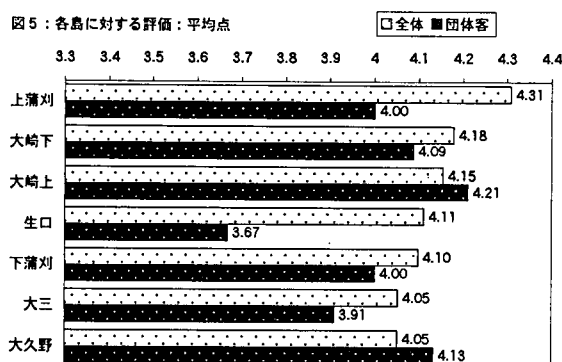


図5：各島に対する評価：平均点

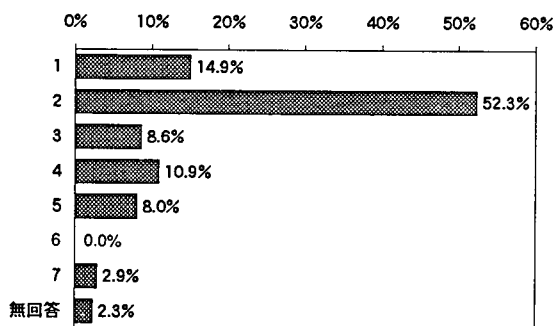


図6：訪れた島の数

な差がみられない。

しかし、島の評価は回答者全体と団体客とで異なる。全体的に、団体客のほうが各島を低く評価するが、大崎上島と大久野島に対し、評価は高い。大崎上島の温泉がツアーに含まれ、それについての評価が高かったこと(以下参照)、ツアーで大久野島で宿泊した人が高く評価したことの影響だといえよう。なお、団体客による上蒲刈島と生口島の評価は、回答者がいずれも7名以下で、代表的だと思えない。

なおこの問から、訪れた島の数も把握できる。今回ではなく、以前訪れたときの評価がやや混じっているかもしれないが、図6で、訪れた島の数をまとめた。

2つの島を訪れた人が91人で過半数を占め、そのうち51人(全体の29.3%)は大崎下島、大崎上島のコンビネーションであった。4ヶ所以上訪れた回答者は37人いるが、そのうち29人が宿泊をした。

次に、各島について、「よかったこと」、「よくなかったこと」を自由に記入するような形式をとった。自由な記入を、分析のためにいくつかの項目にまとめた。

その結果、以下の表1でみられるように、「よかったこと」を具体的にあげた回答数が「よくなかったこと」の3倍にも上り、全体的に島の評価がよかったといえよう。

延べ回答数に対する、各島への訪問者割合、「よかったこと」の回答数の割合、「よくなかったこと」の回答数の割合がほぼ一致していることから、島の評価が大きく別れていないことが明らかである。

表1：「よかったこと」、「よくなかったこと」の回答数

島名	よかったこと		よくなかったこと	
	回答数	%	回答数	%
下蒲刈島	33	10.7	11	10.9
上蒲刈島	20	6.5	9	8.9
大崎下島	87	28.2	26	25.7
大崎上島	92	29.8	21	20.8
大三島	32	10.4	19	18.8
大久野島	22	7.1	10	9.9
生口島	23	7.4	5	5.0
延べ回答数	309	100.0	101	100.0

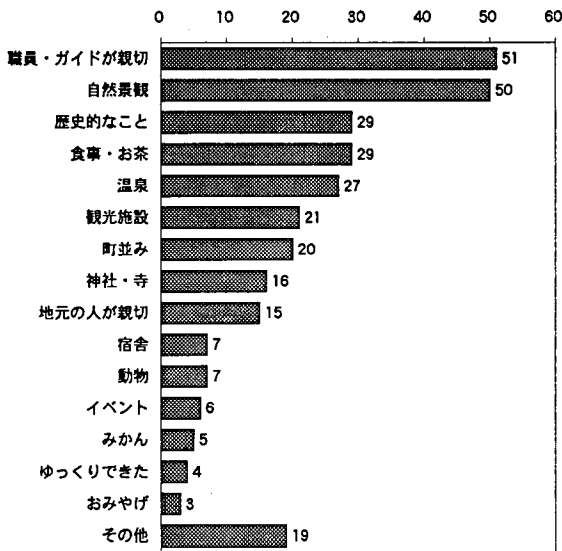


図7：島を訪れてよかったこと
(回答数；複数回答)

しかしそのなかで、「よかったこと」の回答数割合が「よくなかったこと」の回答数割合を上回っている島は大崎下島、大崎上島、生口島の三島で、特に大崎上島の場合その差が大きく、全体的に評判がよかったといえよう。逆に大三島の場合、「よくなかったこと」の割合が「よかったこと」の割合を8.4%も上回っており、島の印象は他の島に比べてよくなかったようである。

具体的によかったこととして多くの回答者にあげられた項目は、図7でまとめた。

島を訪れてよかったことが、職員・ガイドの親切、自然景観、歴史的なこと、食事・お茶と続く。職員・ガイドの親切に関する記入のうち70.6%が大崎下島についての評価であり、御手洗のボランティアガイドが高く評価されている。歴史的なこと、または町並みをあげた回答者も、大崎下島について記入した割合が高く、御手洗の町並みや歴史と、それを観光客に伝えるボランティアガイドが重要な観光資源になっているといえよう。自然景観、食事、温泉の場合、いずれも大崎上島の記入が多く、また温泉は木の江温泉が具体的に多くあげられた。

なお、上に述べたように、「よかったこと」の回答数は訪問者の数に相当するため、訪問者が最も多かった大崎下島、大崎上島に回答が集中する。同じ傾向は、主催者側のアンケート結果にも見ら

れる。つまり、大崎上島の温泉と食事、大崎下島のガイドと町並み・歴史はいずれも120人以上の回答者にあげられ、その他の項目すべては50人を下回る。

よかったことについての記入は、回答者全体と、団体客で異なる。上位項目のみ、図8で比較した。なお、この図では、歴史的なことと、町並みとを一つの項目にまとめた。

回答者全体に比べて団体客のほうが積極的によかったことを記入する割合が少ないが、よくあげる項目は温泉と食事である。言い換えれば、ガイド、自然景観、歴史や町並みへの関心度が低いようで、施設の充実を主に求めている。

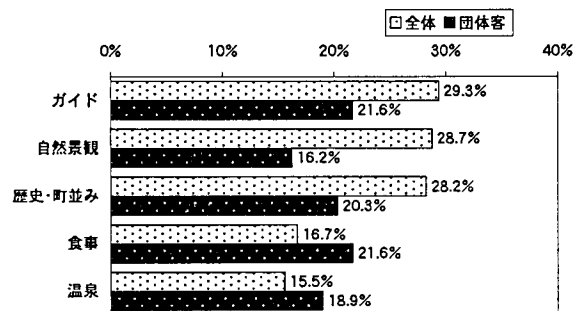


図8：島を訪れて、よかったこと（複数回答）

注：図の%は、「全体」の場合、各項目の回答数がアンケート回答者174人に占める割合を表し、「団体」の場合、問3で「募集团体に参加」と答えた74人に対する割合である。

具体的によくなかったこととして多くの回答者にあげられた項目は、図9でまとめた。最も多くあげられた項目は時間が足りないということで、島側よりも団体旅行やクルーズの設定、または旅行者実態の予定の問題である。次いで、島内の移動に不便を感じた回答者が多く、その3分の1が大崎上島について記入した。この島の場合、港から主な目的である温泉、または見晴らしが楽しめる山の頂上までの交通手段がなく、おさんぽクルーズ開催に当たって特別にバスが運行されていた。そのバスに乗り遅れた場合、島を回ることが難しい。施設に対する不満は1ヶ所への集中がみられなかったため、客の意見が一致して「悪かった」と評価されたものはなかったと思われる。

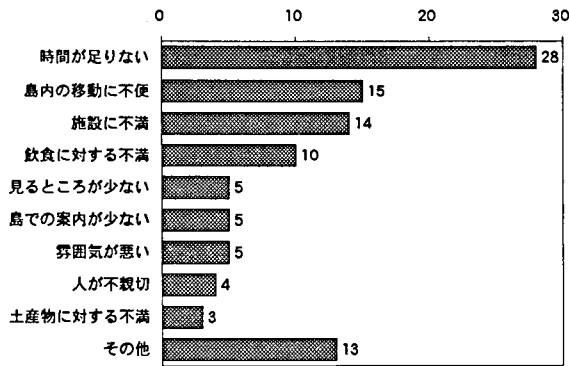


図9：島を訪れて、よくなかったこと
(回答数；複数回答)

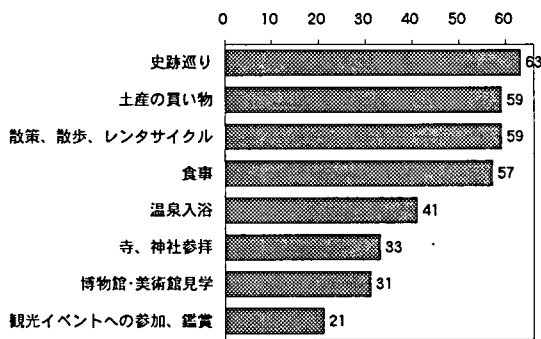


図10：立ち寄った島での行動
(回答数；複数回答)

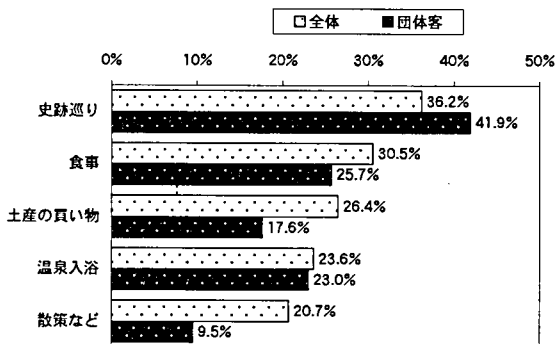


図11：立ち寄った島での行動

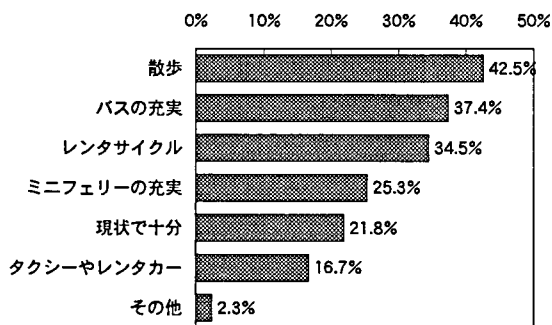


図12：島の望ましい移動手段 (複数回答)

図で表した項目の他に、休憩場が少ない、宿舎に対する不満、船の待ち時間が長いという不満などがそれぞれ1人の回答者にあげられた。

立ち寄った島について、そこでの行動を自由に記入する形式になっていたが、その記入を、分析のためにいくつかの項目にまとめた。立ち寄った島での行動について、397の回答を得た(図10)。

史跡巡りが最も多く、63人で全回答者の36.2%がこの項目をあげた。そのうちの66.3%が大崎下島で記入された。2位のお土産の買い物、4位の食事、5位の温泉はいずれも大崎上島が回答のほぼ半数をしめている。逆に3位の散歩などは、上蒲刈島以外すべての島でほぼ同じ回数で行われた。歴史巡りと温泉については、回答者の人数と回答の回数が完全に一致している。つまり、それらの行動を一度しか行っていない。それに対し、食事、土産の買い物、散歩の場合は回答回数が回答者の数より多く、同じ人が何回か食事をし、土産を買い、または散歩をしたことになる。

行動についての記入は、回答者全体と、団体客で異なる。上位項目のみ、図11で比較した。

ツアーのプログラムに含まれていた史跡巡り(御手洗の町並み見学)以外、すべての項目において、団体客の割合が低い。しかし団体客は行動として史跡巡りが多いものの、先に述べたように、歴史的なことや町並みを具体的に「よかったこと」としてあげている割合が全体に比べて低く、あまり関心を持たなかったような印象を受ける。

お土産の買い物と散歩は時間の都合もあり、団体客があまり行かない。

注：図の%は、「全体」の場合、各項目の回答数がアンケート回答者174人に占める割合を表し、「団体」の場合、問3で「募集团体に参加」と答えた74人に対する割合である。

7. せとうちおさんぽクルーズについての意見と評価

クルーズの1つの魅力は、海から島に近づくことにあるが、島に到着した後、陸の交通手段が必要になる。そこでまず、陸にあがってからの望ま

しい交通手段について意見を尋ねた。7つの島は大崎上島のように、島内での交通手段が必要な島と、大崎下島や生口島のように、観光客が目指している名所・施設が港の近くに立地する島とに別れる。従って、クルーズで立ち寄った島により、この問への回答が異なるはずが、全体的に図12のような交通手段が望ましいとされている。

島内での移動手段としては、徒歩での移動で充分と答えた人が最も多いが、その割合が団体客で半分にのぼる(50.0%)。レンタサイクルの充実も望ましいとされ、特に40代以下の人から要望の声が多かった(55.8%)。また、島内のバス便の充実を求める声も高い。

せとうちおさんぽクルーズの実態について、その舞台になっている瀬戸内海の景観が最も高く評価され、次の「島々に立ち寄れる」という項目を23%も上回っている(図13)。しかし、いろいろな島に立ち寄れることは40代以下の人(74.5%)と個人客(66.7%)にとって、大きな魅力であり、後者は自由に乗り降りができることを評価した割合も高い(52.7%)。団体客の方が、食べ物に対する満足感が大きかったようである(31.1%)。

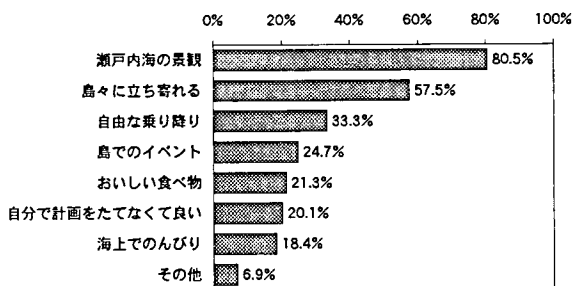


図13：せとうちおさんぽクルーズの魅力
(複数回答)

なお、この調査では、「クルーズ」というものの魅力に関心があったため、あえて値段のことを選択項目に入れていなかったが、主催者側のアンケートでは、料金が安いことが、1位の周遊地実態の魅力に次いで多くあげられた。パスポートの値段は、例えば通常の広島・大崎下島間の往復運賃に比べ、かなり安かったといえよう。

8. 瀬戸内海についての意見と評価

おさんぽクルーズの主な魅力は瀬戸内海の景観であるが、瀬戸内海は景観だけでなく、自然の豊かさ、食べ物の新鮮さ、地域の歴史など、様々な観光資源を有している。クルーズ参加者にとって魅力的なものを、図14でまとめた。

島と海の景観や、豊かな自然を瀬戸内海の魅力としてあげる人が全体的に多かった。前者について、特に40代以下の人約7割、また、団体客よりも個人客の方が(62.4%)このように回答している人が多かった。60代以上の回答者は、島の町並みが瀬戸内海の魅力と考えている人が最も多かった。40代以下の方は、60代以上の人と比べ、都会にないゆとりを魅力的に感じている人の割合が高い(36.6%)。また、広島市以外から来た人は、島の豊かな歴史を感じられることに対する評価が高い(35.7%)。

「島住民の人情やあたたかさ」は、瀬戸内海の魅力の10項目の中で7位にとどまっている。この結果は先に述べた島の評価に比べると、意外である。つまり、「よかったこと」として職員・ガイド・地元の人々の親切が合計で66回あげられたことに対し、全体的な評価のなかでは、景観と歴史が重視されている。

瀬戸内海を旅し、そこで気になるもの、つまり瀬戸内海の魅力制限するものを、図15でまとめた。

瀬戸内海で気になるものとして、浮いているゴミや水の汚れなど、見た目に分かりやすい環境問

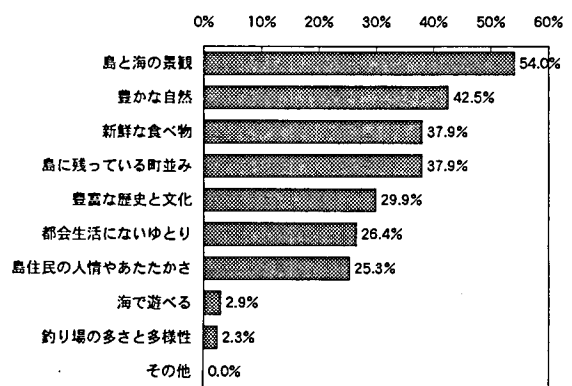


図14：瀬戸内海の島の魅力
(複数回答)

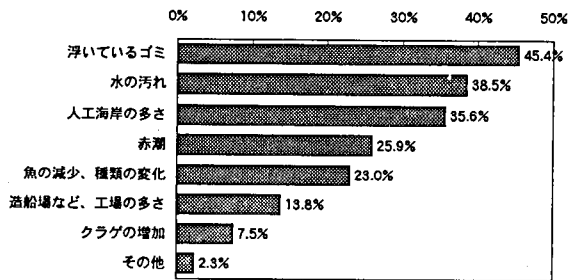


図15：瀬戸内海で気になるもの
(複数回答)

題をあげた人が多かった。この傾向は特に40代以下の人に目立つ(ゴミ63.5%、水の汚れ55.8%)。広島市から来た人の半分以上が、瀬戸内海に浮いているゴミを最も気になるものとしてあげている。魚の減少に関し、40代以下の人よりも50代(30.8%)、60代(28.8%)の人が敏感であり、釣りに興味があるか、食生活の関係かが原因と思われる。工場の多さに関し、団体客よりも個人客の方が気になっている割合が高い(21.5%)。全体的にみると男性の方が回答数が多く、瀬戸内海に浮いているゴミが気になっている割合が特に高い(57.4%)。

このように、瀬戸内海の魅力と、逆にそれを制限するものを見た後、最後に今後の瀬戸内海について、どのような利用方法が望ましいか、考えたい。図16でみると、意見が「新しい開発よりも、自然保護を優先する」という保存方針と、「さんぽクルーズなど、多様な企画で利用方法を工夫する」と、現在あるものを新たな企画によって活かす方針に別れる。逆に「博物館、人口ビーチやホテルなど、観光・レジャー施設を整備する」と、「造船業など、基盤産業に力を入れる」ことを望む回答者はそれぞれ5%以下でとどまる。多様な企画で利用方法を工夫し、ソフト面の充実を求める声は、40代以下の人(53.9%)、個人客(48.4%)、そして特に男性に多い(50.0%)。女性は、利用方法の工夫よりも自然保護を訴える割合が高い(48.6%)。

同じ問を以前、瀬戸田町住民、豊町住民、または瀬戸内海でヨットをしているセーラーにアンケートで出した際、いずれも自然保護派が最も多かったが、施設を整備する要望も1割を超えていた。

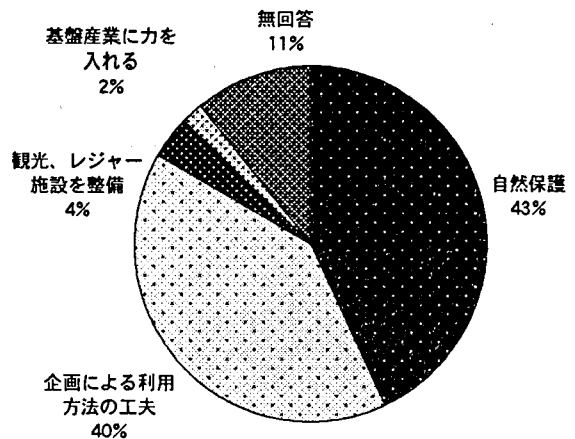


図16：瀬戸内海の今後の利用方法

9. まとめと今後の課題

参加者は、広島県内からの熟年者層の参加、または女性の参加が多かった。値段的なこと、平日に設定されたこと、または計画の内容が影響したと思われる。近接地からの気軽な日帰り旅行として利用した人が多かった。各島での行動と、「せとうちおさんぽクルーズ」の魅力として多くあげられた項目からみると、参加者は「自然の景観をみる」、「温泉浴」、「名所・旧跡を見る」という3つの行動に集中した。全国の観光旅行に関する調査では、この3つの項目が特に50年代から70年代までの旅行者に人気が高く(日本観光協会2001:27)、参加者の行動がそのパターンを反映している。言い換えれば、舟を利用したことにより行動パターンが変化したような傾向がみられない。

回答者はほぼ半分に、団体客と個人客とに別れたが、団体客が参加者全体に比べて行動が史跡見学、温泉、食事という、日本の伝統的な観光行動に集中し、島でよかったことの評価から判断すると、関心が温泉と食事に集中している。また、土産購入の回数も少なく、出費額も低く、その上食事など出費の一部が旅行業者に回ると考えると、地域への経済効果が個人客より低いようにみえる。「せとうちおさんぽクルーズ」は旅行業者の募集团体として利用されたことが多く、そのことにより、運営が安定し、普段訪れない観光客を呼び込むことができた。その一方で、時間が足りな

い、行動が限定されるなど、ツアーによるデメリットもあげられる。

観光客が大崎上島、大崎下島に集中した。ツアーの設定も関係するが、その両島と大久野島を除き、他の島にすべて橋がかかっていることが影響したとも思われる。つまり、橋が架かった島は、船ではなく、自動車で訪れる観光地として意識されている。

全体的に、島の評価がよかったが、訪問者人数に比べて「よかったこと」、「よくなかったこと」ことのいずれがより多くあげられた島もある。大崎下島の御手洗の町並みとそれを観光客に紹介するボランティアガイド、温泉に入る大崎上島、神社の参拝する大三島など、島により、行動の特化がみられると同時に、散策、自然の景観をみるなど、すべての島に共通する行動もある。

島ごとに港と主な観光施設の位置関係や距離が異なる。「せとうちおさんぽクルーズ」という、海から島に到着する交通手段は、島内の交通手段を前提として成り立っている。散歩で充分という島もあれば、バスやレンタサイクルの充実、場合によってミニフェリーという新しい交通手段の発想が必要な島もある。

せとうちおさんぽクルーズの魅力は、自然景観という観光資源の魅力と、様々な島に立ち寄れる、柔軟な計画の魅力からなる。瀬戸内海の景観と自然の豊かさが高く評価されるが、その一方、ゴミ、水の汚れ、人口海岸の多さが気になる参加者も多かった。瀬戸内海の今後の利用方法について、自然保護を優先する考え、または「せとうちおさんぽクルーズ」のような工夫を重視する考えが主で、新たな施設開発を望む声はほとんどなかった。このような参加者の意見をみる限り、瀬戸内海を「観光空間」として位置付けている「せとうちおさんぽクルーズ」のような計画は、自然と環境の維持を前提にしているといえよう。

以上の結果を踏まえ、「せとうちおさんぽクル

ーズ」は全体的に成功したものの、いくつかの課題を残しているといえよう。広島県を中心に、周遊地の島々を観光地として新しく位置づけたが、それは従来の「見る観光」にとどまり、海も「景観」としてしか意識されていなかった。つまり、ツアーバスの代わりに舟が利用された印象が強く、観光の対象になる空間を広げたが、その空間の多様化につながらなかった。団体旅行者が多かったこと、準備時間が短く、各島での体制が揃っていなかったこと、また島内で自由に動ける交通手段がないことが、この結果をもたらしたといえよう。

具体的な課題として、乗客が少なかった東ルートの見直し、予約システムの方法、島々の協力体制、クルーズ船上のサービス提供が解決を必要とする。

参考文献

- 足羽洋保編（1994）「新・観光学概論」ミネルヴァ書房
- 国土交通省（2001）「2000年の我が国のクルーズ等の動向について」
http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha01/10/100822_.html（2003/2/28）
- 日本観光協会（2001）「平成12年度観光の実態と志向」
- 総理府編（1999）「平成11年観光白書」大蔵省印刷局
- Orams, Mark（1999）Marine tourism. Routledge

この調査には、広島大学総合科学部地域科学プログラム・環境共生プログラムの3年生6人（近藤由紀、戸田貴子、福田健彦、麓侑佳、松浦直美、光武昌作）が地域研究実習の一環で、調査員として関った。

せとうちおさんぽクルーズに関するアンケート (2002年11月23日)

- このアンケートは、瀬戸内海における観光とレクリエーションについての研究のためにを行います。
- このアンケートの結果は、瀬戸内海の観光とレクリエーションの今後のあり方を検討するため、または研究の目的のみに使います。その他の目的にデータを用いることはいたしません。
- このアンケートは、無記名です。

ご協力よろしくお願いたします。

なお、このアンケートについて不明な点がございましたら、下記までご連絡下さい。

広島大学 総合科学部 フังก์・カロリン
739-8521 東広島市鏡山1-7-1
電話 0824-24-6363 (研究室)

問1 今回の旅行日程は

1. 日帰り
2.泊 (宿泊地:.....)

問2 せとうちおさんぽクルーズのことを、どこで知りましたか。

1. 広告パンフレット、ポスター
2. 友人、知人
3. 旅行社
4. テレビ、ラジオ
5. 新聞
6. その他 (具体的に):

問3 今回の旅行は、新聞社や旅行社の募集団体に参加していますか。

1. 募集団体に参加している
2. 募集団体に参加していない

問4 今回の旅行は、どなたと一緒にですか。

1. 自分一人
2. 家族
3. 友人、知人
4. 職場や学校の団体
5. 地域などの団体
6. その他 (具体的に):

中に続く

問5 クルーズのバスと宿泊費を除いて、島で買い物や食事などに、本日のかなりの金額を使いましたか。

一人当り円

問6 立ち寄った島についての評価をお聞きします。各項目について、5段階の評価から、自分の意見に最も近いものに○をつけて下さい。

	大盛 よかった	まあ よかった	普通	あまりよく なかった	全然よく なかった	立ち寄り かった
下浦刈島 (見戸代港)	5	4	3	2	1	0
上浦刈島 (県民の浜)	5	4	3	2	1	0
大崎下島 (御手洗港)	5	4	3	2	1	0
大崎上島 (沖浦港)	5	4	3	2	1	0
大三島 (宮浦港)	5	4	3	2	1	0
大久野島	5	4	3	2	1	0
生口島 (瀬戸田港)	5	4	3	2	1	0

問7 立ち寄った島で特によかったこと、よくなかったことを教えてください。

	特によかったこと	特によくなかったこと
下浦刈島 (見戸代港)		
上浦刈島 (県民の浜)		
大崎下島 (御手洗港)		
大崎上島 (沖浦港)		
大三島 (宮浦港)		
大久野島		
生口島 (瀬戸田港)		

問8 立ち寄った島で、町並み観光、散歩、土産の買い物など、どのようなことをしましたか。ご自由に書いて下さい。立ち寄った順番も教えて下さい。

順番	どのようなことをしましたか
下蒲刈島 (見戸代港)	
上蒲刈島 (県民の浜)	
大崎下島 (御手洗港)	
大崎上島 (沖浦港)	
大三島 (宮浦港)	
大久野島	
生口島 (瀬戸田港)	

問9 島へクルーズで寄港し、島内の見学や買い物などで移動する手段として、望ましいと思われるものはなんですか。
あなたの意見にもっとも近いものを3つまで選んで○をつけて下さい。

1. 散歩で十分
2. レンタサイクルの充実
3. 島の各港を結ぶミニフェリーの設置
4. バス便の充実
5. タクシーやレンタカーの充実
6. 現状で十分
7. その他 (具体的に) :

問10 せとうちさんぽクルーズの魅力はなんですか。
あなたの意見にもっとも近いものを3つまで選んで○をつけて下さい。

1. 瀬戸内海の景観を海から見ることが出来る
2. いろいろな島に立ち寄れる
3. 立ち寄った島にいろいろなイベントが準備されている
4. 海の上でゆっくり過ごせる
5. 各島でおいしいものが食べられる
6. 自分が計画を立てるより楽である
7. 自由に降り降りができる
8. バスの値段がてごろである
9. その他 (具体的に) :

裏面に続く

問11 瀬戸内海の島の魅力はなんですか。
あなたの意見にもっとも近いものを3つまで選んで○をつけて下さい。

1. 都会生活にないゆとり
2. 新鮮な食べ物
3. 島住民の人情やあたたかさ
4. 島に残っている町並み
5. 海水浴やボートなど、海で遊べること
6. 豊かな自然
7. 島と海の景観
8. 釣り場の多さと多様性
9. 豊富な歴史と文化
10. その他 (具体的に) :

問12 ひごろ瀬戸内海で、以下のもので気になるものがありますか。
あなたの意見にもっとも近いものを3つまで選んで○をつけて下さい。

1. 水の汚れ
2. 浮いているゴミ
3. クラゲの増加
4. 魚の減少・種類の変化
5. 人工海岸の多さ
6. 赤潮
7. 造船場など、工場が多さ
8. その他 (具体的に) :

問13 今後の瀬戸内海について、どのような利用方法が望ましいですか。
あなたの意見にもっとも近いものを1つ選んで○をつけて下さい。

1. 新しい開発よりも、自然保護を優先する
2. さんぽクルーズなど、多様な企画で利用方法を工夫する
3. 博物館、人口ピーチやホテルなど、観光・レジャー施設を整備する
4. 造船業など、基礎産業に力を入れる

問14 生活のなかで、船を利用することがありますか。
当てはまるものすべて○をつけて下さい。

1. 通勤や通学に定期的にフェリー・高速船を利用する
2. 病者や日帰り旅行など、たまにフェリー・高速船を利用する
3. クルーズをするところがある
4. プレジャーボートに乗ることがある
5. 釣りのために船に乗ることがある
6. 仕事上 (漁業、運送業など) 船を利用する
7. 船を利用することがない

問15 現在のお住まいはどこですか？ 県 _____ 市・町・村

問16 あなたの御年齢は？

1. 20歳未満
2. 20歳代
3. 30歳代
4. 40歳代
5. 50歳代
6. 60歳代
7. 70歳代
8. 80歳以上

問17 あなたの性別は？

1. 男性
2. 女性

御協力ありがとうございました